

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
全国ワークショップ 報告書

2019（平成 31）年 3 月 5 日（火）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」全国ワークショップが開催されました。当日は、推進地域の担当者の方（主に教育委員会の指導主事）や推進校の先生方等、合わせて 62 名の方々にご来場いただき、下記の要領で盛会の裡に終了いたしました。

【開催概要】

日時：2019（平成 31）年 3 月 5 日（火） 14：00-17：15

会場：筑波大学東京キャンパス文京校舎／放送大学文京学習センターB1F 会議室

主催：筑波大学、日本体育大学、早稲田大学

参加者：62 名

プログラム：

14：00-14：05 開会あいさつ

スポーツ庁審議官 藤江 陽子 氏

14：05-14：35 各地域拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践事例

筑波大学体育系 助教 大林 太朗 氏

日本体育大学オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

特別研究員 乳井 勇二 氏

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

研究員 岡田 悠佑 氏

14：35-14：50 パラリンピック教育普及啓発事業報告

日本財団パラリンピックサポートセンター 田代 純一 氏

徳留 圭吾 氏

14：50-15：20 関係団体による情報提供

東京 2020 組織委員会 塩見 絢子 氏

東京都教育庁 小宮山 詠美 氏

15：20-15：30 休憩

15：30-16：45 報告会およびグループ討議

16：45-17：15 各グループで議論された内容の報告

17：15-17：20 閉会あいさつ

筑波大学 教授 真田 久 氏

開会行事では、スポーツ庁審議官の藤江陽子氏より挨拶がありました。藤江氏からは、東京大会開催まであと約 500 日という中で少しでも地域にレガシーを残せる取り組みを行っていきたい、とのお話がありました。

次に、全国中核拠点の3つの大学から、担当する推進地域の実践事例の紹介がありました。筑波大学からは、「復興五輪に関する実践」、「ボッチャ体験に関する実践」、「関係団体が発行する教材を活用した実践」の紹介がありました。日本体育大学からは、「米の学習を通じた多文化共生教育」、「オリンピック・パラリンピックの理念と意義」に関する学習、「パラスポーツに関する年間の取組」等の紹介がありました。早稲田大学からは、「授業と関連づけた実践」、「特別活動と関連づけた実践」、「他の取り組みや地域と連携した実践」等の紹介がありました。続いて、日本財団パラリンピックサポートセンターの田代氏、徳留氏から、パラリンピック教育用教材「I'mPOSSIBLE」の活用状況等について説明がありました。さらに東京2020組織委員会の塩見氏からは「よい、ドン！スクール」の状況やマスコットの派遣事業等について、東京都教育庁の小宮山氏からは、東京都の進めるオリンピック・パラリンピック教育の概要の紹介がありました。



藤江 陽子 氏



会場の様子

10分の休憩の後、推進校の担当者（主に教育委員会の方）によるグループワークが行われました。参加された方々に7つのグループに分かれていただき、実践事例やセミナー及びワークショップの実施方法に関する情報共有、そして次年度に向けた課題や展望の検討等が行われました。各グループからは、推進校の募集の段階における広報の仕方の工夫が必要、セミナーやワークショップで推進校の先生方にパラスポーツ体験をしてもらうことで先生方のオリ・パラ教育に対する興味・関心を高めることができる、持続可能な取り組みにしていくためにローリスク・ハイリターンな実践を追及していくことが大切等の意見が出ました。



ワークショップの様子



真田 久 教授

ワークショップ終了後には、筑波大学教授の真田氏から閉会あいさつがありました。真田氏がバツハ IOC 会長とお会いした際に、東京大会以降のレガシーとして残るオリ・パラ教育の実現への期待のお言葉を頂いたエピソードを取り上げ、更なるオリ・パラ教育の実践の充実への抱負を述べられました。